

2023年12月13日

公益財団法人 上原記念生命科学財団

2023年度上原記念生命科学財団 上原賞受賞者及び各種助成金受領者決定のお知らせ

公益財団法人上原記念生命科学財団（東京都豊島区、理事長：上原明／大正製薬ホールディングス株式会社代表取締役社長）は、12月13日（水）に開催した理事会において、2023年度上原賞・各種助成金贈呈対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の上原賞は2名、各種助成件数は324件、助成金総額（上原賞副賞を含む）は12億9,705万円となりました。

上原賞 2名 副賞 1件 3,000万円 ※掲載は五十音順

○岩坪 威氏 東京大学 大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授

対象となった研究業績

「アルツハイマー病・認知症性疾患の分子病態解明と治療薬の実用化」

○西川 博嘉氏 国立がん研究センター 研究所 腫瘍免疫分野 分野長

対象となった研究業績

「がん遺伝子異常がもたらす免疫抑制機序の解明と治療への応用」

各種助成金 324件 12億3,705万円

○特定研究助成金	20件	7,000万円
○研究助成金（1件500万円）	80件	4億円
○研究推進特別奨励金（1件400万円）	10件	4,000万円
○研究奨励金（1件200万円）	90件	1億8,000万円
○海外留学助成金	55件	3億510万円
○若手海外留学支援金	35件	1億8,730万円
○その他		
・国際シンポジウム開催助成金	24件	2,000万円
・来日研究生助成金	10件	3,465万円

公益財団法人上原記念生命科学財団は、1985年の設立以来、今年度で39年目となります。2023年度までの生命科学に関する諸分野の研究に対する助成（上原賞含む）は約11,500件、約371億円となります。

上原賞受賞者

(五十音順)



受賞者氏名： 岩坪 威 (イワツボ タケン) 博士 (医学)

所属機関および役職： 東京大学 大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授

生年月日 1960年 2月 14日生

略 歴 1984年 3月 東京大学 医学部 卒業
1984年 6月 東京大学 医学部附属病院 内科 研修医
1986年 10月 東京大学 医学部附属病院 神経内科 医員
1987年 1月 日本赤十字社医療センター 神経内科 医師
1988年 1月 東京都老人医療センター 神経内科 医師
1989年 12月 東京大学 医学部附属脳研究施設 脳病理学部門 助手
1992年 10月 東京大学 薬学部 機能病態学教室 客員助教授
1996年 8月 東京大学 薬学部 臨床薬学教室 助教授
1998年 9月 東京大学 大学院薬学系研究科 生命薬学専攻臨床薬学教室 教授
2007年 9月 東京大学 大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授
2020年 4月 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 (兼)

受賞対象となった研究業績

「アルツハイマー病・認知症性疾患の分子病態解明と治療薬の実用化」

加齢性神経変性・認知症性疾患の病態を解明し、アルツハイマー病疾患修飾療法の標的と作用メカニズムを明示した。アルツハイマー病では、老人斑の主要成分がアミロイドβ (Aβ) 42ペプチドであることを証明し、家族性アルツハイマー病遺伝子プレセニリンの病因変異がAβ42の産生を高めることを発見した。更に、プレセニリンを活性中心に有するγセクレターゼ複合体の形成機構と構造機能関連メカニズムを解明した。これら成果の実用化に向け大規模臨床研究J-ADNIを組織し、治療薬の治験・実用化体制を築き上げ、抗アミロイドβ抗体薬レカネマブの治験を成功に導いた。近年では、アクアポリン4分子が神経細胞内タウ蓄積の進展と細胞変性を防御する機能を有することを発見し、グリンプアティッククリアランスを新規の神経変性予防治療の標的メカニズムと位置づけた。また、パーキンソン病ならびにレビー小体型認知症についてもα-synucleinを病因タンパク質として確立した。今後も神経変性病原因タンパク質の抑制を通じたより有効性の高い新規治療法の開発と実用化が大いに期待される卓越した研究業績である。

上原賞受賞者

(五十音順)



受賞者氏名： 西川 博嘉 (ニシカワ ヒロヨシ) 博士 (医学)

所属機関および役職： 国立がん研究センター 研究所 腫瘍免疫分野 分野長

生年月日 1970年8月12日生

略 歴 1995年3月 三重大学 医学部 医学科 卒業
1995年4月 三重大学 医学部附属病院 研修医
1995年10月 松阪中央総合病院 研修医
1997年4月 鈴鹿中央総合病院 内科医員
1998年4月 三重大学 大学院医学研究科 入学
2002年3月 三重大学 大学院医学研究科 修了
2002年4月 三重大学 医学部附属病院 内科医員
2003年4月 Memorial Sloan Kettering Cancer Center リサーチフェロー
2006年4月 三重大学 大学院医学系研究科 病態解明医学講座 講師
2010年4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学 特任准教授
2012年4月 Roswell Park Cancer Institute, Adjunct Associate Professor (兼)
2015年4月 国立がん研究センター 研究所 腫瘍免疫研究分野 分野長／
先端医療開発センター 免疫トランスレーションリサーチ分野 分野長
2016年4月 名古屋大学 大学院医学系研究科 教授 (クロスアポイントメント)

受賞対象となった研究業績

「がん遺伝子異常がもたらす免疫抑制機序の解明と治療への応用」

がん免疫は、PD-1 阻害剤などの成功により一挙にがん研究・がん医療の中心に躍り出たが、臨床的な有効性は未だ限定的で、がん免疫が対峙するがん組織の微小環境での詳細な分子間相互作用の解明が喫緊の課題であった。生検組織の様な微量の検体から生きたまま免疫細胞を採取し、詳細な免疫解析を可能にする技術を独自に開発し、網羅的免疫応答解析およびゲノム解析を融合した新たな「免疫ゲノム研究」を創出した。これにより、がん免疫の分子基盤を次々と解明し続け、がん細胞が持つゲノム異常が免疫細胞の機能制御に直接かかわるといふ「Immuno-genomic cancer evolution:免疫ゲノムがん進化説」という新たな仮説を提唱し、世界のがん免疫学を牽引し続けている。PD-1 阻害剤治療での患者層別化バイオマーカーの発見と解析技術開発による臨床への応用、腫瘍浸潤 CD8⁺T 細胞および制御性 T 細胞における PD-1 の発現機序および機能の解明、がん細胞のゲノム変異による免疫制御環境構築の発見は特筆すべき研究成果である。基礎研究としての発展はもとより、臨床診断機器の開発やがん免疫ゲノムプレジジョン治療への展開といった臨床応用への発展が期待される、世界をリードする革新的な研究業績である。

<参考資料> 【いままでの上原賞受賞者一覧】（敬称略、所属・役職は受賞時）

年度	受賞者	所属・役職
2022	大野博司	理化学研究所生命医科学研究センター副センター長
	胡桃坂仁志	東京大学定量生命科学研究科教授
2021	浦野泰照	東京大学大学院薬学系研究科／大学院医学系研究科教授
	岡野栄之	慶應義塾大学医学部教授
2020	影山龍一郎	京都大学ウイルス・再生医科学研究科教授
	吉村昭彦	慶應義塾大学医学部教授
2019	岩井一宏	京都大学大学院医学研究科教授
	斎藤通紀	京都大学高等研究院教授
2018	佐々木裕之	九州大学生体防御医学研究所主幹教授
	高柳 広	東京大学大学院医学系研究科教授
2017	松本邦弘	名古屋大学大学院理学研究科名誉教授
	宮脇敦史	理化学研究所脳科学総合研究センター副センター長
2016	一條秀憲	東京大学大学院薬学系研究科教授
	小川誠司	京都大学大学院医学研究科教授(共同受賞)
	宮野 悟	東京大学医科学研究科教授(共同受賞)
2015	豊島 近	東京大学分子細胞生物学研究所教授
	水島 昇	東京大学大学院医学系研究科教授(共同受賞)
	吉森 保	大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科 大阪大学特別教授(共同受賞)
2014	狩野方伸	東京大学大学院医学系研究科教授
2013	笹井芳樹	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
	濡木 理	東京大学大学院理学系研究科教授
2012	竹縄忠臣	神戸大学大学院医学研究科特命教授・質量分析総合センター長
	渡邊嘉典	東京大学分子細胞生物学研究所教授
2011	森 和俊	京都大学大学院理学研究科教授
	山本雅之	東北大学大学院医学系研究科長・教授
2010	河西春郎	東京大学大学院医学系研究科教授
	間野博行	自治医科大学教授・東京大学大学院医学系研究科特任教授
2009	杉山雄一	東京大学大学院薬学系研究科長・教授
	西田栄介	京都大学大学院生命科学研究科教授
2008	飯野正光	東京大学大学院医学系研究科教授
	山中伸弥	京都大学物質－細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター長
2007	門脇 孝	東京大学大学院医学系研究科教授
	坂口志文	京都大学再生医科学研究科長
2006	審良静男	大阪大学微生物病研究所教授
	寒川賢治	国立循環器病センター研究所副所長
2005	鍋島陽一	京都大学大学院医学研究科教授
	水野美邦	順天堂大学医学部教授
2004	清水孝雄	東京大学大学院医学系研究科教授
	田中啓二	東京都医学研究機構東京都臨床医学総合研究所副所長
2003	谷口 克	千葉大学大学院医学研究院教授
	長野哲雄	東京大学大学院薬学系研究科教授
2002	月田承一郎	京都大学大学院医学研究科教授
2001	成宮 周	京都大学大学院医学研究科教授
	柳田充弘	京都大学大学院生命科学研究科長・教授
2000	浅島 誠	東京大学大学院総合文化研究科教授
	田中紘一	京都大学大学院医学研究科教授

(次ページへ続く)

(続き)

【いままでの上原賞受賞者一覧】(敬称略、所属・役職は受賞時)

年度	受賞者	所属・役職
1999	宮下保司	東京大学医学部教授
1997	長田重一	大阪大学医学部教授
	御子柴克彦	東京大学医科学研究所教授
1996	矢崎義雄	東京大学医学部長・教授
1995	竹市雅俊	京都大学大学院理学研究科教授
1994	廣川信隆	東京大学医学部教授
1993	谷口維紹	大阪大学細胞生体工学センター教授
	本庶 佑	京都大学医学部教授・遺伝子実験施設長
1992	市原 明	徳島大学酵素科学研究センター長・教授
	多田啓也	東北大学医学部教授
	永津俊治	藤田保健衛生大学総合医科学研究所教授
1991	高久史磨	国立病院医療センター院長
	中西重忠	京都大学医学部教授
1990	垂井清一郎	大阪大学医学部教授
1989	大野雅二	東京大学薬学部教授
1988	大村 智	北里研究所理事・副所長
1987	宇井理生	東京大学薬学部教授
1986	入澤 宏	岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授
1985	杉田秀夫	国立武蔵療養所神経センター疾病研究第一部長
	家森幸男	島根医科大学教授

以上